第42回製剤・創剤セミナー 『学生ポスタープレゼンテーション』
2017 年 8 月 24 日 (木)、淡路夢舞台国際会議場

点眼による網膜への薬物送達効率の向上を目的としたIgG-Fc修飾リポソームの設計

岐阜薬科大学　薬物送達学大講座　製剤学研究室
〇太田圭治、小野寺理沙子、田原耕平、竹内洋文

検討項目

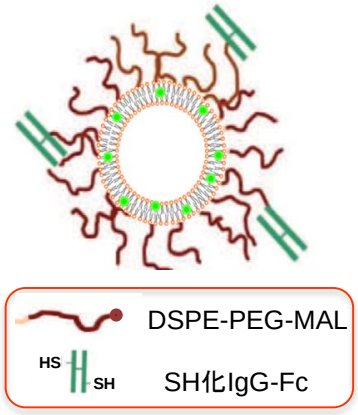
細胞表面受容体への親和性付与したキャリアー設計を目的として以下の検討を行った

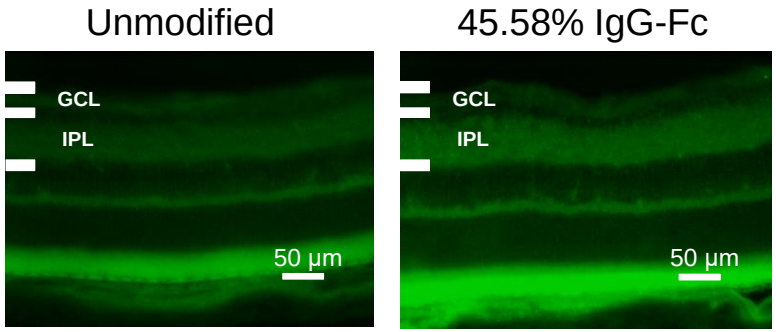
① IgG-Fcフラグメント (IgG-Fc)修飾リポソームの設計

② *in vivo*における後眼部への薬物送達機能の評価

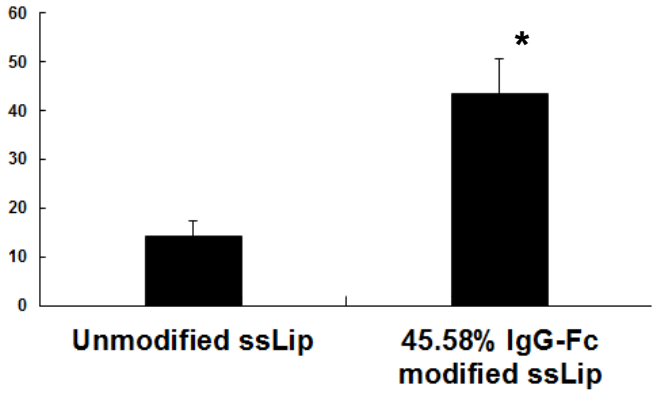
結果

IgG-Fc修飾リポソーム





GCL: ganglion cell layer, IPL: inner plexiform layer



高濃度IgG-Fcをリポソーム表面に修飾することで、
未修飾のものに比べて後眼部への
薬物送達効率が向上

Fig. 1 Fluorescence intensity in the IPL 30 min after eyedrop administration (mean ± S.E.M., n = 6-8)
*** ; P<0.05, vs Unmodified ssLip**

結論

IgG-Fc修飾量の及ぼす後眼部への薬物送達効率の違いをはじめとする、
IgG-Fc修飾リポソームの設計に関する有用な知見を得る事が出来た。